

第2次加東市総合計画 (基本構想等概案)

平成29年3月

加 東 市

目次

序論

- 第1章 はじめに
 - 1 計画策定の趣旨
 - 2 計画の構成と期間
 - 3 計画の位置づけ
- 第2章 加東市の魅力
- 第3章 社会潮流の変化

基本構想

- 第1章 将来目標
 - 1 将来像
 - 2 人口の将来展望
 - 3 まちの住みよさ実感
 - 4 土地利用構想
- 第2章 まちづくりの視点（方向性）
 - 1 ひとづくり
 - 2 暮らしづくり
 - 3 まちづくり
 - 4 行政経営
 - 5 協働

基本計画

参考資料

- 1 まちの現状
- 2 まちづくり市民ワークショップのまとめ
- 3 策定経過

第1章 はじめに

- 1 計画策定の趣旨
- 2 計画の構成と期間
- 3 計画の位置づけ

第2章 加東市の魅力

第3章 社会潮流の変化

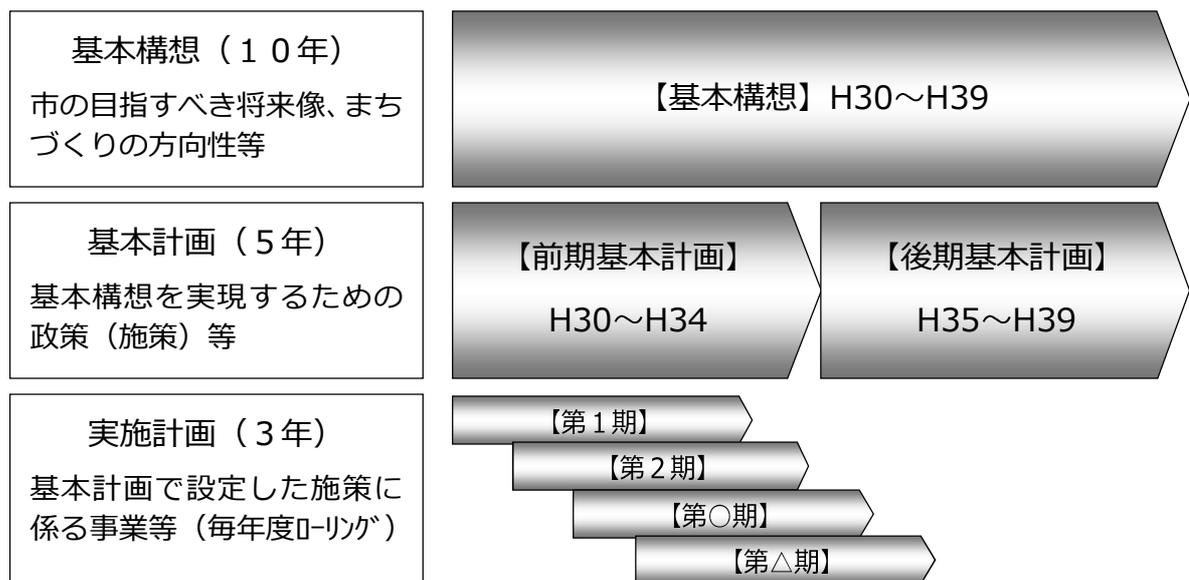
第1章 はじめに

1 計画策定の趣旨

総合計画は、まちづくりの総合的な指針となる計画で、市の最上位の計画となります。本市においては、合併後の新たな市民ニーズに対応するため、市民の参画を得て第1次加東市総合計画「愛称：みんなでつくる加東 きらめき☆プラン」を平成19年度に策定し、以後10年間この計画に基づいたまちづくりを進めてきました。

この計画の計画期間が平成29年度をもって終了することから、社会潮流、市民の意識やニーズの変化、今後の政治・経済の動向などを見定めるとともに、第1次加東市総合計画による成果、課題等を踏まえ、次なる10年間の新しいステージ加東のまちづくりの指針として第2次加東市総合計画を策定します。

2 計画の構成と期間



3 計画の位置づけ

- (1) まちの活性化や元気づくりを市民と協働で進めていくためのまちづくりの指針
- (2) まちづくりを効率的かつ効果的に進めていくための総合的な行政経営の指針

第2章 加東市の魅力

本市には、豊かな自然、歴史・文化をはじめ、生活環境の良さなど多くの魅力があります。その魅力を、まちづくり市民ワークショップにおける意見を踏まえて次のとおり整理しました。この魅力を、維持・発展させ、発信し、住みよいと実感できる、そして、住みたいと思ってもらえるまちづくりを進めていくことが重要となります。

1 豊かな自然がひろがるまち

のどかな田園環境、加古川、東条湖、三草山などの自然資源のほか、兵庫県立播磨中央公園、清水・東条湖・立杭県立自然公園などがあり、緑豊かな環境に包まれるとともに、多様な生物の生息空間となっています。

2 歴史・文化が息づくまち

西国霊場 25 番札所御嶽山清水寺、国宝の鹿野山朝光寺本堂、国指定重要文化財の若宮八幡宮本殿、上鴨川住吉神社本殿などの多くの文化財や史跡があり、また、国指定重要無形民俗文化財の住吉神社神事舞など多くの民俗芸能や佐保神社秋の大祭をはじめ地域の太鼓屋台、獅子舞などの伝統が継承されています。

3 地域コミュニティが豊かなまち

地区（自治会）やまちづくり協議会が中心となって、地域のコミュニティ増進が進められており、その中で温かい心が育まれ、人と人とのつながりが醸成されています。また、自発的かつ自立的な地域づくりが進められています。

4 交流のまち

企業や兵庫教育大学等の立地により、近隣市町からの通勤・通学者の流入が多く、昼間人口が夜間人口を上回っています。また、公園、ゴルフ場、温泉施設、道の駅とうじょう、東条湖おもちゃ王国などの観光・レジャー施設の立地に加え、さまざまなイベント開催により、市外から多くの人を訪れています。

5 住環境が優れたまち

地域との協働により、豊かな自然環境や歴史的・文化的環境の保全とともに、地域の特性を活かした良好な景観や美しいまち並みづくりを進めています。また、過去の事象からみても比較的災害の少ない地域ではありますが、万一の災害に備えた安全・安心施策を重点的に推進しています。

6 地域産業が盛んなまち

釣り針や鯉のぼり、雛人形など江戸時代から明治にかけて始められた多くの伝統地場産業や山田錦、桃、ぶどうなどの特産品があります。また、山田錦の栽培をはじめとする農業が営まれる一方、工業団地を中心に、多くの企業が操業されており、県下上位の製造品出荷額を誇ります。

7 広域交通に優れたまち

東西に中国縦貫自動車道と国道 372 号、南北に国道 175 号が走り、さらに主要県道がつながるなど、広域的な道路ネットワークが形成されています。また、中国縦貫自動車道のインターチェンジが 2 か所あり、JR 加古川線が通るなど、京阪神間へ交通アクセスも良好で、産業面においても大きな効果をもたらしています。

8 子育て環境が充実したまち

小中一貫教育の推進をはじめ、ICT 関連機器の整備・活用など、子どもたちが健やかに成長していける教育環境づくりや学校教育の充実に向けた取組を推進しています。

また、児童館における充実した事業展開をはじめ、幼児教育の無償化、幼児・保育施設の充実など、本市の良好な自然環境とあわせて、子育てがしやすい環境が整っています。

9 公共施設が充実したまち

国立大学法人兵庫教育大学、兵庫県立社高等学校、中学校、小学校などの教育施設や、文化会館、公民館、図書館、体育館、グラウンドなどの生涯学習施設、保健福祉施設などが充実しており、多様な活動が展開されています。

第3章 社会潮流の変化

社会潮流の変化は、まちづくりにおいて、考慮すべき非常に重要な要素であり、その動きを見据えながら進めていく必要があります。また、今後、計画期間中においても新たな変化が生じる可能性があることから、常にその変化を捉えながら、施策展開を行っていく必要があります。

1 少子高齢化や人口減少社会の進展

本市は、平成27年国勢調査において、人口減少となる自治体が多い中、幸いにも人口増加となりましたが、今後、少子高齢化や人口減少社会の進展により、本市においても人口減少期に入っていくことが予想されます。加えて、まちの活力を担う生産年齢人口¹が著しく減少し、人口構造が大きく変化することが予想されます。このため、未来を支えるひとづくりとあわせて、交流人口²の拡大へ向けた施策を推進していく必要があります。

また、本市においては、市民の日常生活での自動車交通の果たす役割は大きく、高齢化の進展によって、自家用車で移動できなくなる人が増加することが予想され、地域公共交通施策とあわせて、今後の福祉施策においてもその対応が大きな課題となります。

加えて、今後、市税の増収を見込むことができず、普通交付税が減額される一方で、社会保障費の増加、都市基盤や公共施設の老朽化に伴う維持管理コスト増などが見込まれることから、健全な財政運営を行っていく必要があります。

2 ライフスタイルや価値観の多様化

ライフスタイルが多様化するとともに、価値観や市民ニーズも多種多様になっており、個人の意識も、「ワーク・ライフ・バランス³」など、量から質を求める方向へと変化しています。誰もが自分らしく生活し、定年後のシニア世代などが知識と経験を活かして自己実現できる環境づくりが求められます。

¹ 「生産年齢人口」とは、年齢別人口のうち、労働力の中核をなす15歳以上65歳未満の人口をいう。

² 「交流人口」とは、その地域に訪れ、一時的に滞在する人の数をいう。

³ 「ワーク・ライフ・バランス」とは、やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、人生の各段階において多様な生き方が選択・実現できる、仕事と生活が調和した状態をいう。

3 地域コミュニティの希薄化

核家族世帯や単独世帯の増加、市民意識の多様化等によって今後、地域コミュニティの希薄化が懸念されます。安全・安心をはじめとするまちづくりは、市民同士のつながりが不可欠であるという意識を市民一人ひとりが持ち、つながりを大切にする温もりのあるコミュニティを維持するとともに、活発な市民活動を産み育てていくことが重要となります。

□基本構想

第1章 将来目標

- 1 将来像
- 2 人口の将来展望
- 3 まちの住みよさ実感
- 4 土地利用構想

第2章 まちづくりの視点（方向性）

- 1 ひとづくり
- 2 暮らしづくり
- 3 まちづくり
- 4 行政経営
- 5 協働

第1章 将来目標

1 将来像

将来像を設定するに当たり、本市の市民生活における行動規範となる「加東市民憲章」を理念的前提として捉える必要があります。

「加東市民憲章」は、平成23年3月20日に、市民一人ひとりが、日々の営みの中で加東市の良さに気づき、それらを守り、助け合いながら、よりすばらしいまちの実現を目指すために決めました。

加東市民憲章

わたしたちは、美しい自然・豊かな文化・あたたかな人々を誇る加東の市民として、この憲章を定めます。

- 一、人と自然を愛し、安らぎのあるまちにしましょう。
- 一、学ぶ心を大切にし、文化あふれるまちにしましょう。
- 一、喜びをもって働き、健やかなまちにしましょう。
- 一、だれもが希望をもてる、明るいまちにしましょう。

この中では、加東市が誇りとする自然、文化、人々をキーワードとして掲げ、目指すべきまちの実現のために、協働の精神に基づき、市民が主体的に取り組んでいく普遍的な行動目標を掲げています。

この「加東市民憲章」を実践する市民は、まさしく、まちづくりの主役となる人であることから、この「加東市民憲章」に則り、10年後の本市が目指すべき将来像を設定します。

第1次加東市総合計画において設定した将来像「山よし！技よし！文化よし！夢がきらめく☆元気なまち 加東」は、「加東市民憲章」の趣旨に沿ったものであり、そして、10年後においても変わらなく目指すべきところであることから、第2次加東市総合計画においても継承し、サブテーマについては、新しいステージ加東への新たな歩みを進めていくことに加え、市民の思い、社会潮流の変化などを踏まえて、次のとおり設定します。

◆将来像◆

山よし！技よし！文化よし！

夢がきらめく☆元気なまち加東

～みんなが主役！絆で結ばれた笑顔あふれる幸福実感都市～

将来像「山よし！技よし！文化よし！ 夢がきらめく☆元気なまち 加東」は、加東市の良き資源を最大限に活かし、市民相互の一体感や融和が醸成され、自然環境や住環境が良い、産業や文化活動などが活性化した、希望に満ちあふれる、活力のある輝くまちを示しています。

そして、サブテーマ「みんなが主役！絆で結ばれた笑顔あふれる幸福実感都市」は、市民のありたいまちの姿についての思いが込められたものであり、「みんなが主役！」は市民が常に前向きで自発性があり、積極的にまちづくりに参画する姿を、「絆で結ばれた」は家族や地域などにおける、人と人とのつながりが大切にされた支え合いや助け合いの様子を、「笑顔あふれる幸福実感都市」は愛着や満足に加えて、あふれる笑顔に包まれた温かみのある、幸せを実感できるまちを示しています。

◆まちづくり市民ワークショップで出された意見◆

- ◆ 『自発的なチャレンジができるまち』（自発）
 - 自発…個人の力が活かせる、やる気があるまち
- ◆ 『笑顔で「おはよー」いえるまち』
 - 笑顔は健康、元気など、人の幸せな姿を象徴
 - 「おはよー」は、人と人とのつながりやコミュニティが明るくすがすがしい様子を象徴
 - 誰もが笑顔で過ごせるまち
 - 「おはよー」が聞こえるまち
- ◆ 『家族を育むまち』（家族）
 - 家族…家族みんなを育み、大切にするまち
- ◆ 『魅力を知って、愛着の持てるまち』（魅力）
 - 魅力…市民が誇りを持てる、歴史を知る
- ◆ 『住んで良かったまち』
 - 住んで良かったを広める
 - いろいろなことがつながるまち
 - ゆとりのある生活ができるまち

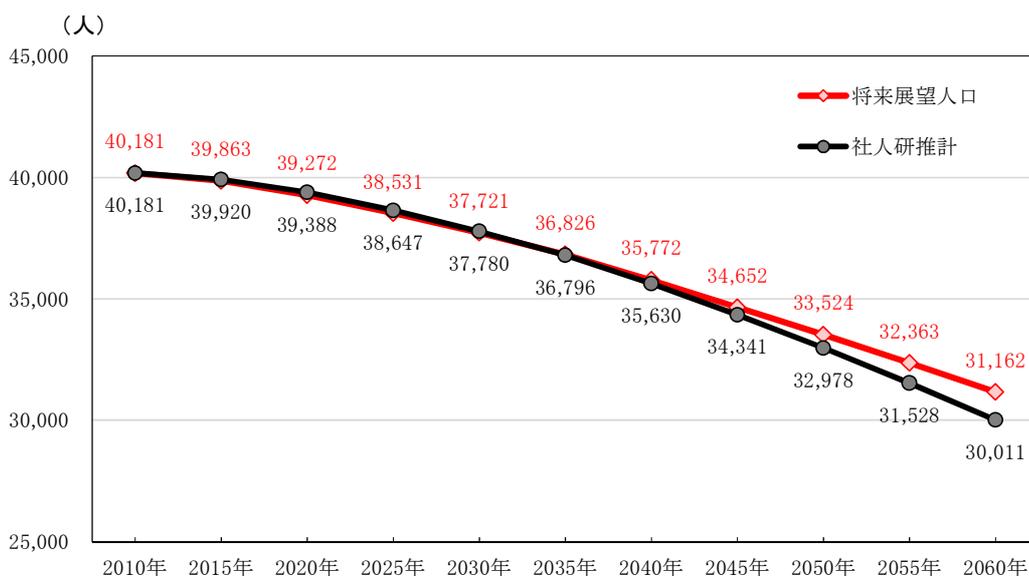
2 人口の将来展望

第1次加東市総合計画において定めた、平成29年の目標人口40,000人を達成することができましたが、少子高齢化の進展によりわが国の人口は減少傾向にあり、このような状況の中、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）においては、本市において近年の出産や転入、転出等の状況が今後も続くと想定した場合、平成52（2040）年には35,630人になると予測しています。

「加東市人口ビジョン」（平成28（2016）年3月）では、本市が目指すべき将来展望人口を、平成52（2040）年で35,700人としています。これは、平成52（2040）年までに「合計特殊出生率⁴が1.7」まで回復し、かつ、「人口移動が均衡」した（転入数・転出数が同数となり、移動がゼロとなった）場合の人口となります。

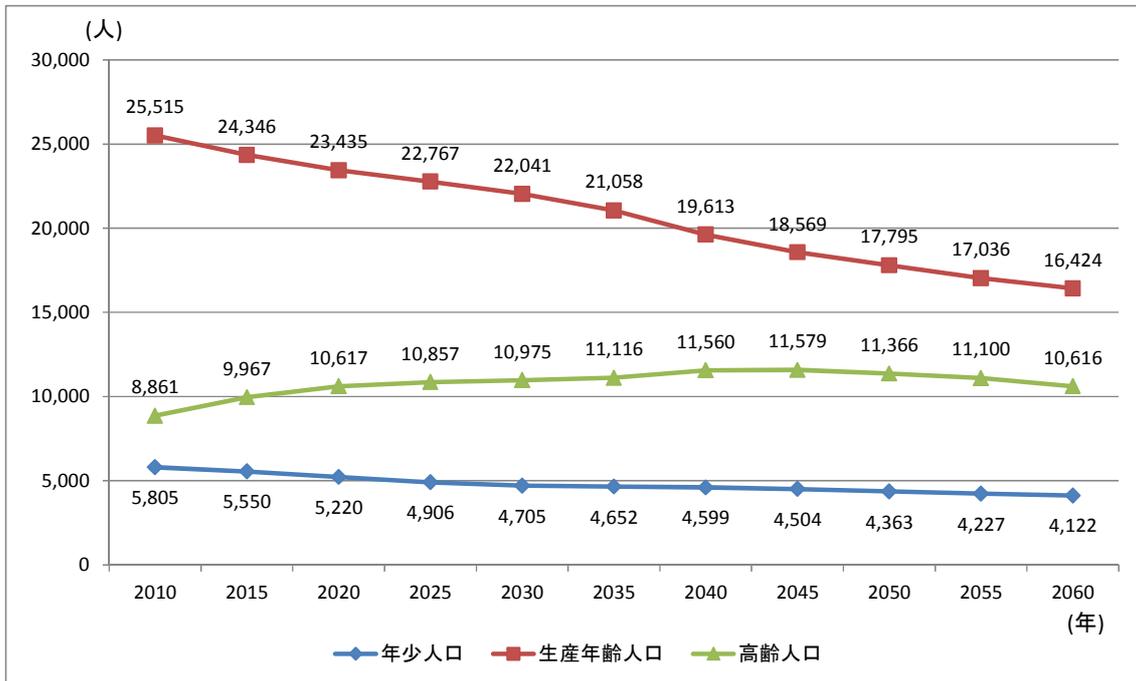
本計画においては、総合的な取組を推進することにより人口減少をできる限りゆるやかにすることを旨とするともに、人口ビジョンの将来展望人口を基に、平成39年（2027年）の目標人口を、38,200人とします。（人口ビジョンの平成37（2025）年から平成42（2030）年の人口が毎年同じ規模で減少するとして平成39（2027）年10月1日現在における目標人口を推計）

◆将来展望人口◆



⁴ 「合計特殊出生率」とは、「15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性がその年齢別出生率で一生涯の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

◆将来展望人口（3区分別人口）◆



2010年は国勢調査、2015年～2060年は将来展望人口推計値

平成39（2025）年度目標人口（平成39年10月1日現在）

38,200人

3 まちの住みよさ実感

住みたい、住んで良かった、住み続けたいと思えるまちは、その前提として市民が住みよいと実感できているまちであると言えることから、これまでに実施した市民意向調査（アンケート）結果を基に、平成39年度における住みよいと実感している市民の割合を70パーセント以上とすることを目標とします。

※「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」と回答された率

平成19年：63.5%、平成24年：69.2%、平成27年：68.6%

平成39（2025）年度住みよさ実感度

70%以上

4 土地利用構想

市域は、加古川流域、千鳥川流域、東条川流域の各平野、中央部の丘陵や段丘、北東部の山地で構成され、全体として豊かな田園環境を形成しています。

今後も、第1次加東市総合計画の土地利用構想を継承、発展させ、豊かな田園環境を守りながら、産業や文化活動の一層の発展を目指すため、市民が、安全、快適で環境への負荷の少ない利便性の高い住環境を享受できる自然環境と都市環境の調和がとれた計画的な土地利用を進めます。

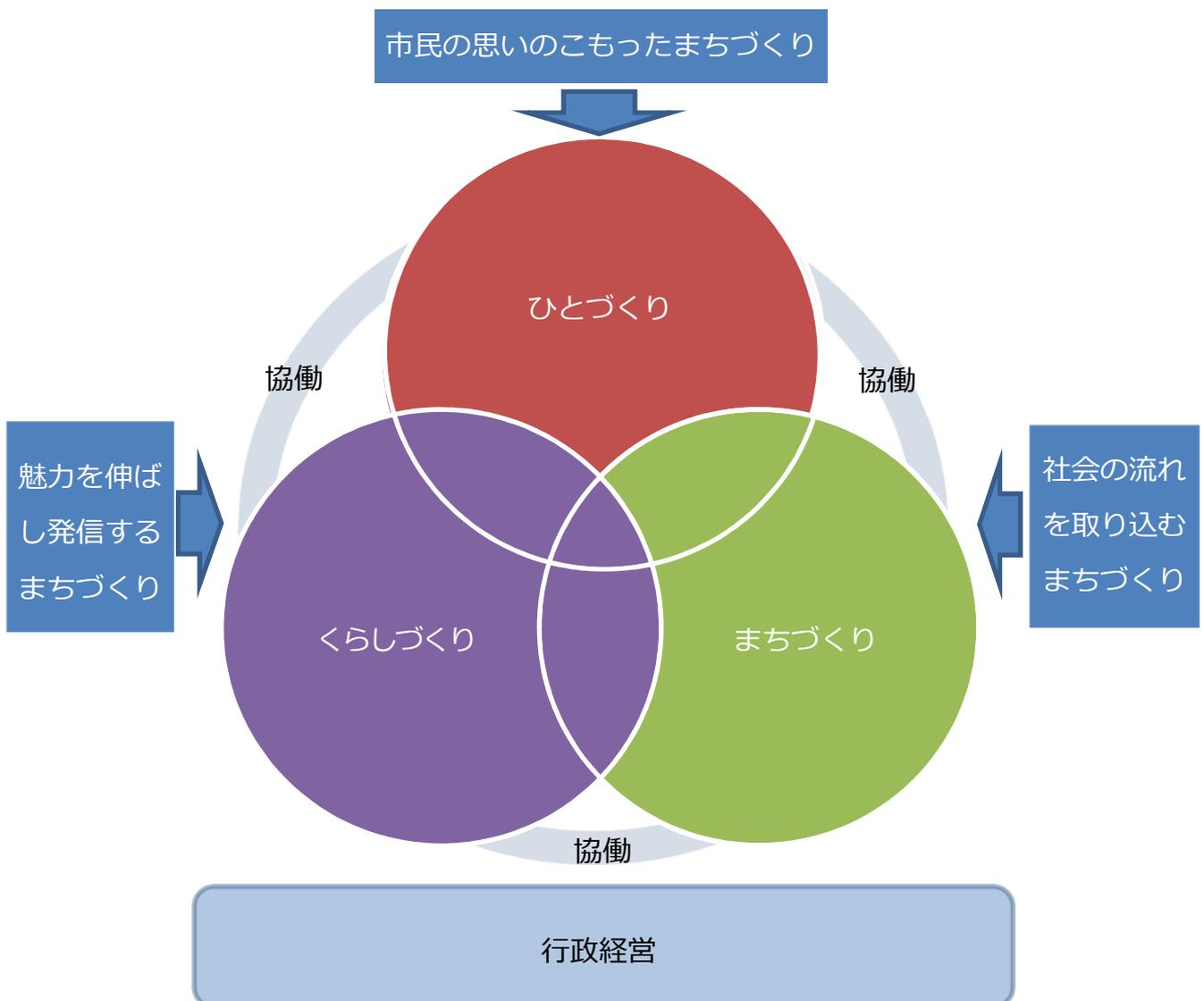
第2章 まちづくりの視点（方向性）

まちづくりには、その主役となる「ひと」、ひとが営む日々の「暮らし」、そして、「ひと」や「暮らし」のステージとなる「まち」が重要な要素となります。

そこで、将来像を実現するためのまちづくりを、未来を支える「ひとづくり」を基本として、やすらぎのある市民の生活を支える「くらしづくり」、これまでに築き上げてきたまちの器の質をさらに高める「まちづくり」に、これらを推進するための行政の役割である「行政経営」を加えた4つの視点（方向性）で取り組んでいくこととします。

また、「ひとづくり」「くらしづくり」「まちづくり」は、市民、事業者等と行政がそれぞれの役割を担いながら取り組んでいく必要があることから、「協働」をこれらの視点（方向性）における共通の認識とします。

◆まちづくりの視点（方向性）◆



1 ひとづくり

「ひとづくり」では、加東市が将来にわたって多様な人が活躍できるまちでありたいため、まちづくりを支える人材の育成を目指します。

人権尊重の精神を大切にしながら、生涯学習や文化・スポーツ活動を通して、生きる喜びや感動を味わえる、自分の楽しみを持ち自発的な活動のできる心豊かで健全な人を育みます。

また、農業の担い手の育成・確保をはじめ、自分で生計をたてることができ、また地域で活躍する人材を育成するとともに、来訪者に対する市民のおもてなし意識の向上を図り、質の高いまちづくりを支えます。

さらに、若い世代の希望に応える結婚・出産・子育て支援を推進するほか、子どもたちの教育環境や学校教育を充実し、社会性や自立性を基本に、国際性やふるさとへの愛着と誇りを育むことで、加東市の未来を担う人材の育成を進めます。

また、あいさつや声かけなどにより、市民の地域コミュニティへの帰属意識の醸成や地域福祉を支える担い手の育成に努めます。

◆まちづくり市民ワークショップで出された意見◆

- 地域文化を大切にするまち
- 市民への歴史や産業の情報発信
- 一人ひとりを大切にする小学校教育
- あいさつの大切さを教える小中高校教育
- かせぐことができる人間の育成
- 加東市の魅力、文化、産業に関する教育
- 生涯スポーツを楽しむことができるまち
- 自分の時間が楽しめ、時間がゆっくりと流れていくまち
- 自分のことばかりでなく、他人を助けることができるゆとりのある人材の育成
- イベント・行事の支援や参加への声かけ運動
- サークル活動への参加やワークショップの開催
- 新しい人や意見を受け入れる仕組み（親しみやすいまち）
- 地域やご近所同士の交流・つながりがあるまち
- あいさつや声のかけあいがあるまち（交流や助け合い、安心・安全づくり）
- あたたかい人間関係、家族の和、地域の和のあるコミュニティづくり
- 自発的な活動（チャレンジ）ができ、一人ひとりが成長し、地域が成長するまち
- 地域リーダー・後継者の育成
- 同窓会の応援
- ノウハウや技術、やる気を持った人とそれを必要とする人の出会いの仕組みづくり
- 市民参画機会の充実（アンケート、公共施設運営等を含む。）
- 市民主体のイベントの開催・活性化（魅力発見・発掘イベント等）
- ボランティアガイド、スポーツボランティアの育成
- 産・学・住（市民）の連携
- 出会いを重視し、街コンでカップルになって結婚した人に家をプレゼント

2 くらしづくり

「くらしづくり」では、加東市が将来にわたって安全・安心で、安らぎのあるまちでありたいため、子どもから高齢者まで全ての市民が健やかに暮らし続けることができる生活環境の整備を目指します。

山や川などの豊かな自然や、それらを取り巻く、人々の営みなどの文化を守るとともに、加東の魅力を活かした、住みよく、働きやすい環境を創ります。

そして、市民一人ひとりが住み慣れた地域で、安心して、健康で心豊かに暮らすことができるよう、文化に触れ、スポーツなどに親しむ機会を提供するとともに、福祉・健康・医療サービスのさらなる充実を図ります。

また、豊かで恵まれた自然環境と共生するため、ごみ減量と資源化をより一層推進するとともに、循環共生型社会の実現に向けて、市民ぐるみによるライフスタイルの転換を推進します。

◆まちづくり市民ワークショップで出された意見◆

- 育児が低コスト、低リスクでできるまち
- 健康・命を育むまち
- 三世代交流のきっかけにもなる若い人のためのまちかど体操等の普及
- 健康、医療、交流、自然を活かして10年長生きできるまち
- 医療の充実（医師や病院など）
- 手厚く無理のない福祉制度
- 安定した収入と雇用の確保による生活基盤の安定

3 まちづくり

「まちづくり」では、加東市が将来にわたって安全・快適で住みやすいまちでありたいため、これまでに築き上げてきたまちの器を質的にさらに高めることを目指します。

暮らしの基盤となる道路や魅力ある市街地の整備、上下水道サービスの安定運営や安全な交通環境はもとより、持続可能な公共交通ネットワークの形成により、まちの機能性や利便性の向上を図ります。

また、豊かな自然や歴史・文化をはじめ、景観や住環境などに配慮した、まち並み整備を推進するとともに、災害に強いまちづくりに取り組みます。

さらに、農業の活性化をはじめ、商工業の基盤の強化や経営の健全化の促進など、地域産業の振興を図るとともに、交流人口の拡大を目指します。

そして、多くの人を訪れたい、住みたいと思ってもらえるまちを目指し、まちの魅力をさらに高め、発信します。

◆まちづくり市民ワークショップで出された意見◆

- 自然が多いまち
- 憩いの場が充実しているまち
- 自然との共生に労力を惜しまないまち
- 自然資源（山、川、ホタル、ミヤマクワガタ、温泉等）の活用
- 公園やビオトープ等の安全・安心の遊び場があるまち
- 交通事故がないまち
- 歩道、外灯、パトロール（見守り）があり、明るく安全なまち
- 道路体系の整備（特に南北の幹線）
- コミュニティバスの充実（高齢者の増加への対応）
- 市民の交通手段の充実
- 山田錦を活用した新たな展開（PR戦略、新しい取組をする企業の支援）
- 農作物等のブランド化（有機栽培の野菜づくり、「伝の助うどん」の売込み等）
- 新しいことを始める人をサポートする創業特区のような加東市ならではの制度づくり
- 観光産業、観光ボランティアの活性化
- おもてなしの仕組みづくり（カフェ、サロン、伝の助アート、アンテナショップ等）
- 市民協働による観光資源の発掘・整備
- 住んでみたいまち
- 元気で明るいまち
- 魅力を発見し、知ってもらうまち
- 発展しても素朴な雰囲気損なわないまち

4 行政経営

「行政経営」では、加東市が将来にわたって活力のある元気なまちでありたいため、戦略的かつ持続可能な市民に信頼される行政経営を目指します。

少子高齢化や人口減少社会が進展する中、移住定住施策をはじめとした戦略的かつ計画的な行政経営により、加東市の持つポテンシャルを最大限に発揮し、質の高いまちづくりを進めます。

また、限られた財源を有効に配分するため、新たな行政経営システムの構築などを通して、行財政改革の視点を含めた、事業の選択と集中、重点化に取り組み、経営基盤を強化しながら、市民が成果を実感できるまちづくりを推進します。

◆まちづくり市民ワークショップで出された意見◆

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">○公共施設や設備が充実しているまち○安定した税収が確保できるまち |
|---|

5 協働

これからのまちづくりには、市や地域の活性化や元気づくりが非常に重要となり、行政だけでなく市民、事業者等あらゆる主体との「協働」が必要不可欠となります。そのため、「ひとづくり」「くらしづくり」「まちづくり」における共通の認識である「協働」を重視したまちづくりを推進します。

そして、市民、地域、企業、NPO、ボランティア団体などとの連携と適切な役割分担を行うことにより、より一層活力のある元気な住みよいまちを目指します。

◆まちづくり市民ワークショップで出された意見◆

- 自発的な活動（チャレンジ）ができ、一人ひとりが成長し、地域が成長するまち
- 地域リーダー・後継者の育成
- 同窓会の応援
- ノウハウや技術、やる気を持った人とそれを必要とする人の出会いの仕組みづくり
- 市民参画機会の充実（アンケート、公共施設運営等を含む。）
- 市民主体のイベントの開催・活性化（魅力発見・発掘イベント等）
- ボランティアガイド、スポーツボランティアの育成
- 産・学・住（市民）の連携
- 観光産業、観光ボランティアの活性化
- 市民協働による観光資源の発掘・整備
- 元気で明るいまち
- 魅力を発見し、知ってもらいまち
- 発展しても素朴な雰囲気損なわないまち

第2次加東市総合計画 体系図(案)

参考

